

令和 4 年度 ■ 当初予算 □ 補正予算 ( 月 )

機 関 名	農業試験場		課題コード	R040301	事業年度	R4 年度 ~ R6 年度	
課 題 名	新規就農者の現状と課題及び中等教育以前のキャリア教育実態の把握						
機関長名	佐藤 孝夫			担当(班)名	企画経営室 経営班		
連絡先	018-881-3313			担当者名	飯塚 悠莉子		
戦略コード	2	戦略名	農林水産戦略				
目指す姿コード	1	目指す姿名	農業の食料供給力の強化				
方向性コード	1	施策の方向性	経営力の高い担い手と新規就農者の確保・育成				
種 別	重点(事項名)		早期経営安定に向けた新規就農支援				基盤
	研究	○	開発		試験		調査
	県単	○	国補		共同		受託
							その他

評価対象課題の内容

1 研究の目的・概要

(1) 就農するとは職業を選択する事であり、人生を左右する重要な決定である。一方、県では経営指標により目指すべき農業経営像は示しているものの、現状は就農直後から経営が安定までのプロセスや、雇用就農者の1年間の働き方等、農業を志す人たちが最も知りたい基本的な情報提供が不足している。これらの問題の解決に向けて、新規就農者の経営状況や就業状況を把握し、農業を志す人たちに対し具体的に就農をイメージできるツールを提供する。  
 (2) これまでは農業高校を中心に実施してきた新規就農対策であるが、新規学卒・Uターン就農の増大に向け、中学校以前のキャリア教育の実態を明らかにし、より早い時期からキャリアとして農業に接することで子供達の職業選択の1つに農業をイメージさせるきっかけをつくる。

(1) 本県の新規就農者は毎年200人以上確保されているが、現在の農地を今後も維持するためには、年間270人以上の新規就農者を確保する必要がある。新規就農者の半数がUターン就農者である現状から、県外から就農者確保と共に、あらためて県内出身の就農者の確保・定着が重要である。  
 (2) 現課題における若い農業者の意見として、「農業を職業として選択させるためにはあまりにも情報が少ない」、「限定的な優良事例ではなく生の情報が欲しい」、「農業に対するイメージの悪さ」、「小さい頃から農業に触れることの重要性」がある。就農をイメージできる素材の準備、中学校以前のキャリア教育としての農業教育の2点に早急に対応することが重要である。

3 最終到達目標

① 研究の最終到達目標

(1) 新規就農者の経営状況やその変化、雇用先での働き方等を明らかにし、農業を志す人たちが就農をイメージできるツールを提示することで、将来設計を明確化でき、安心して就農できるようにする。  
 (2) 中学校以前のキャリア教育の実態を明らかにし、中学校以前のキャリア教育に農業分野を繰り入れることで、子供達が職業選択に農業をイメージするきっかけとする。

② 研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度

(1) 農業を志す人たちが就農をイメージできるツールを活用することで、就農当初から経営が安定するまでのプロセス、雇用就農者の1年間の働き方などを明確にイメージすることができ、新規就農者の増加・定着に寄与する。  
 (2) 中学校以前のキャリア教育として農業に触れることで、子供達の職業選択の1つに農業が意識されるようになり、新規就農者の増加に貢献する。

(全体計画において 計画)

実施内容	到達目標	R4	R5	R6	年度	年度	(最終年度) R6年度
		年度	年度	年度			
新規就農者の実態に即した就農をイメージできるツールの提案	新規自営就農者の経営状況を明らかにする						
	新規就農者の法人雇用の実態を明らかにする						
	新規就農イメージツール(パンフレット等)の作成						
キャリア教育としての農業の重要性の検討	中学校以前のキャリア教育の状況を明らかにする						
		合計					
計画予算額(千円)		500	500	500			1,500
財源内訳	一般財源	500	500	500			1,500
	国費						
	その他						

外部有識者等の意見・コメント

<p>1 必要性</p>	<p>○新規就農者を継続的に確保するため重要な課題である。 ○中学、高校ではインターンシップなど職場体験などを通じたキャリア教育がなされているが、農業への関心は依然として低い。職業としての農業を意識づける上での課題などを是非解明して欲しい。 ○農業従事者の高齢化等に伴う担い手の減少は、本県のみならず全国的な傾向でもあり、全国共通の課題となっており、農業の担い手、特に新規就農者の確保は待ったなしで重点的に取り組むべき事項となっている。こうした意味からも、県内外を問わず幅広い観点で新規就農者の確保に向けて、環境づくりやツールを準備することの必要性は非常に大きい。</p> <p>【対応方針】 農業従事者の担い手の減少は、全国共通の課題であり、新規就農者の確保が重要である。ツールの提示やキャリア教育としての農業教育の整備等、現場のニーズを確認しながら、計画どおりに進める。</p>
<p>2 有効性</p>	<p>【就農希望者の実態に即した就農をイメージできるツールの提案】 ○これまで他県でも同様な取組をしているものと思われるので、その有効性や課題を検証した上で、本県のツール提案に活かして欲しい。 ○新規就農者には大別して新規参入・Uターン・新規学卒のパターンがあるが、最近ではメガ団地の形成や法人化の進行などでこれらの経営体へ雇用の形で就農するケースがかなりのウエイトを占めるようになってきている。また、これらの雇用就農者が農業経営体の担い手となるケースも見られるようになってきている。こうした中であって、就農へのきっかけづくりや環境づくり、さらにツールづくりは、新規就農者の確保に向けた有効な手法となり得る。</p> <p>【キャリア教育としての農業の重要性の検討】 ○現状把握は重要だが、現状のキャリア教育により就農者が増加するかどうかの検証をどのように行うのかが疑問。単なる現状把握に終わらないよう他県の研究調査事例や、これまでの就農者のキャリア教育状況などの把握も必要。</p> <p>【対応方針】 既往成果、他県事例も含めて、幅広く検討する。 キャリア教育については、平成20年に学習指導要領改訂時に新たに盛り込まれた比較的新しい内容であり、これまで小中学校で実施されてきた学校農園や田植え体験のような食育ベースの取組とは全く異なるものであるため、まずは県内のキャリア教育の現状分析を最優先に実施する。</p>
<p>3 技術的達成可能性</p>	<p>【就農希望者の実態に即した就農をイメージできるツールの提案】 ○目標の達成は可能と思われる。就農希望者のニーズは常に変化しているため、発信する情報も柔軟に対応できるよう発信ツールもデジタルツールを活用するなど工夫していただきたい。 ○新規就農者にとって現実的なツールの提示、効果的なメニューを提示することで、十分に到達可能な課題設定と考えられる。</p> <p>【キャリア教育としての農業の重要性の検討】 ○現状把握は可能と思われる。現状が今後の職業選択にどのように影響するのかを明らかにするため、追跡調査なども検討して欲しい。</p> <p>【対応方針】 現場のニーズに対応できるよう速やかな成果報告に努める。</p>
<p>4 その他</p>	<p></p>

課題名：新規就農者の現状と課題及び中等教育以前のキャリア教育実態の把握

場所名：農業試験場

令和4年度予算額 500 千円

研究期間：R4～R6

### 研究を始めるニーズや問題点など

- 県外からの新規就農者確保と共にあらためて県内からの新規就農者確保が必要（R1～3年実施課題）。
- 若い農業者からは「就農希望者が目にする資料は、限定的な優良事例に偏っている」、「実情を感じ取れる生の情報が少ない」、「就農を意識させるためには小さい頃から農業に触れることが重要」との意見がある。

### 研究成果による県民への貢献・目的

- 就農を志す人たちが就農をイメージできるツールを活用することで、就農当初から経営が安定するまでのプロセス、また雇用就農者の1年間の働き方などを明確化でき、安心して就農できる。
- 中学校以前の早い段階での農業のキャリア教育が、子供達の職業選択に農業をイメージするきっかけとなる。

### 研究課題のブレイクスルーポイント

- 就農直後からの営農状況の実態把握及び、就農をイメージできるツール（パンフレット等）の提案。
- 中学校以前のキャリア教育として農業に接することで子供達が職業選択の一つに農業を意識するきっかけをつくる。

### 研究内容

#### 1. 就農希望者が就農をイメージできるツールの提案

目的：就農を志す人達が農業を職業としてイメージできるような環境を整える。

##### ① 新規自営就農者の経営実態調査

対象候補：新規自営就農者 等  
内容：経営概要、経営収支、資材や機械、労働力（時間）等について就農以降の実態を調査し、経営が安定していくまでのプロセスを明らかにする。

##### ② 新規雇用就農者の働き方実態調査

対象候補：新規雇用就農者 等  
内容：法人での働き方、1日の仕事内容等を明らかにする。

#### 2. 農業のキャリア教育の重要性の検討

目的：中学校以前のキャリア教育により、子供達が将来の職業選択の1つに農業をイメージするきっかけをつくる。

##### ① 中学校以前のキャリア教育の実態調査

対象候補：教育委員会、県内小中学校 等  
内容：中学校以前のキャリア教育の内容、農業への関わりについて明らかにする。

##### ② 各産業分野におけるキャリア教育への関与実態調査

対象候補：農業及び農業以外の産業分野  
内容：各産業分野におけるキャリア教育への関わりと実施状況を明らかにする。

就農を志す人たちが農業という職業をイメージできるツールを活用することで、就農から経営が安定するまでのプロセス、また雇用就農者の1年間の働き方などを明確化でき、安心して就農できる。

中学校以前の早い段階でのキャリア教育に農業を加えることにより、子供達の職業選択に農業をイメージするきっかけをつくることができる。

新規就農者確保数の増大・定着